



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

初任者研修 課題等研修Ⅴ【中学校】

令和3年10月28日（木）実施

講義「次代を担う子どもを育成するための進路指導～新しい時代の進路指導の在り方～」

講師：高知商業高等学校 前校長 岡崎 伸二 氏



これからの社会は、誰も経験したことがない社会。正解がない時代。

新しい時代に求められる力とは…?

課題発見解決力＝創造力

↓ どうすれば身に付けることができるか？

チャレンジして、失敗から学ぶこと

これまでは、踏襲型で生産を高め、経済成長を遂げてきた。しかし、社会はどんどん変化している。新しい社会をつくっていく子どもたちには、どんどんチャレンジし、失敗から学んでいくことの大切さを教えたい。

Q.これからの進路指導・キャリア教育に必要なことは？

社会 Society5.0
↓
企業・大学
↓
求める人材が変わる
入学試験が変わる
高校
普通高校と専門高校のボーダーレス化
単線型進路指導から
複線型進路指導へ

変わる

生徒のこの質問に、あなたはどうか答えますか？

僕、大学に進学したいとき、A高校を受けたいがよね…

従来型

将来何になりたいの？

これからは

大学で、何を勉強したいの？

将来無くなる職業もあれば、新たに生まれる職業もある。今ある職業に限定して進路を考えさせることは、学びを狭めてしまう可能性がある。

A.あなた自身が変わること

これまでと同じ進路指導は成り立たない

あなた自身が変わるための四つのポイント

① コミュニケーション力・プレゼン力

生徒の行動を変容させられる『指導言』を身に付ける

例) 元気よく遊ばせたい時、どう伝える？

抽象的△

△ 一生懸命遊ばましよう

◎ 汗をかくだらい遊ばましよう

行動レベルで示す◎

② コーチング力・ファシリテーション力

生徒のやる気を引き出し、未来に向かわせる『ど』

◎ どうしたいの？

◎ どうしてそう考えたの？

生徒自身が、自分のやりたいことが分かってくる。

NGワードの『こ』

△ こうしなさい

△ こっちがええぞ

③ 課題発見解決力・創造力

チャレンジし、失敗体験を積み重ねる、正解であるかどうかを求めない

例) “川が汚れている”という地域課題に対してどう解決させる？

△ 川をきれいにしよう

◎ この川にホテルを飛ばそう

解決すべき課題のレベルを上げる。課題とは、現実と理想のギャップ。理想が低い人は動かない。

④ ICT活用力

これからは必須の力



演習では、「ロイロノート」を使って、グループの意見をまとめプレゼンしました。

【ワークショップ】講義のポイントを踏まえた進路指導のワンシーンを考える～「ロイロノート」を使ったグループワーク～



この間の実力テストで250点満点で120点やったけど、私はB専門高校へ行って大学に行きたいが。でもB専門高校は150点ないと受からんと塾の先生が言いよった。私はどうしたらいい？

お題：この後どんなやりとりをしたらよいか

受講者が考えた『教師のセリフ』の一例

どうしてB専門高校へ行きたい？

何を勉強したい？あなたが興味をもっているものは何？

あと30点はどうやって上げていく？

よく考えたね、相談してくれて嬉しいよ！

来月の今日、また相談において。

受講者の感想



生徒から進路について相談されることが多いのですが、例えば「入試に向けて英語をどうやって勉強したらよいか」と聞かれた際に、「こうしてみたら？」と提案してしまっていました。今回の講義を受けて、この対応では、生徒が自分で課題や目標を設定するチャンスを奪ってしまうと分かったので、これからは、生徒がどうしたいのか、どうしたらよいと思うのかを考えられるようにしていきたいと思っています。

さらに次へ進むために…

期限を示す一言

「複式学級の授業から考える授業づくり」

講師：高知大学教育学部附属小学校 沖 卓弥 教諭



高知県内の…

小・中・義務教育学校数 288校
複式のある学校数 89校

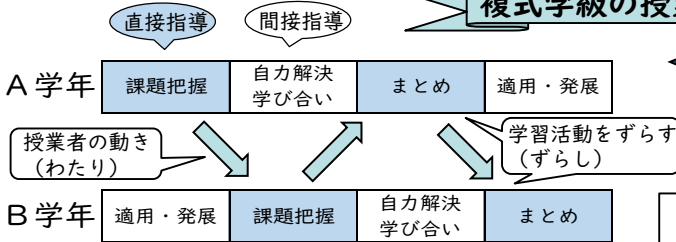
全体の約3割

複式学級は大変？

- ・ 2学年分の教材研究が大変そう…。
- ・ 少人数なので意見が広がらないのでは？

→ 複式の授業から見える授業づくり
を考えてみましょう。

複式学級の授業の行い方



チェック

- 「わたり」 … 二つの学年を行き来すること。
- 「ずらし」 … 学習活動をずらすこと。

【教師が子どもと直接関わる場】

- ① 課題をつかむ場
- ② 子どもの学びを把握する場
- ③ 子どもたちの考えをゆさぶる場
- ④ 基本事項の指導を徹底する場

直接指導

間接指導

【教師が直接関わる必要がない場】

- ① 課題を自力解決する場
- ② 子ども同士の考えを吟味しあう場
- ③ 学んだことをまとめ、練習する場

つまり、一人一人が役割を分担し主体的に学び、考える力を育む時間といえます。

司会役
授業を進める

記録役
みんなの意見を
黒板に記す

フロア役
意見を
発表する

「しかけ」 10の方法

- ① 順序を変える
(文章や数字の順序を変えるなど)
- ② 選択肢をつくる
(いくつか選択肢を準備し、どれが正解か考える)
- ③ 置き換える
(語句や文を違和感のある別の語句や文に置き換え、ゆさぶる)
- ④ 隠す
(挿絵・題名・図の一部などを隠す)
- ⑤ 加える
(解決に必要な情報も加え、迷わせる)
- ⑥ 限定する
(解決に必要な情報を見せず、徐々に加えていく)
- ⑦ 分類する
(図形や語句を共通点に着目して分類する)
- ⑧ 図解する
(文章を図や絵に置き換える)
- ⑨ 配置する
(文や絵を課題に沿って適切に配置する)
- ⑩ 仮定する
(もし～だったらと仮定して考える)

【子どもたちが主体的に学習するためには…】

- ・ 子どもたちが表現したくなる「しかけ」をつくる。
- ・ 児童の役割をはっきりさせる
- ・ 学習の進め方をはっきりさせる
- ・ 活動ができる準備物を用意する
(動かせる具体物・ホワイトボード等)
- ・ 参加の状況を見取り、十分でなければ再度支援を行う。

複式の授業から見える授業づくり

児童観が変わる！

→ 子どもたちは、教師が思っている以上にたくさんの方が自分たちでできます。思い切って子どもたちに任せてみましょう。

授業観が変わる！

→ この授業で、どんなしかけを使おうかと考えることが、子どもたちが主体的になる授業づくりの第一歩です。

【受講者の感想】

- ・ 沖先生の複式学級の授業には、10のしかけなど「子どもたちが主体的に活動する授業」の要素がいくつも詰まっていると感じた。本研修での学びを踏まえ、その授業で用いようとしているしかけが、ねらいとどのようにつながるのか、また、子どもの思考のプロセスはどうなるのか、といった部分まで考え教材研究をしたい。